

平成 27 年度 公益社団法人大気環境学会 事業報告  
(平成 27 年 7 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日)

1. 会員の状況

種 別	平成 27 年 6 月 30 日	種 別	平成 28 年 6 月 30 日	差引増減 (△)
正 会 員	932 名	正 会 員	901 名	△ 31 名
法人会員 A	150 名	法人会員 A	143 名	△ 7 名
法人会員 B	50 名	法人会員 B	53 名	3 名
学生会員	68 名	学生会員	52 名	△ 16 名
賛助会員	16 団体 (20 口)	賛助会員	17 団体 (20 口)	1 団体

正会員数は、平成 26 年度は 52 名の減少であったが、平成 27 年度は 31 名の減少になった。

2. 年会報告

平成 27 年 9 月 15 日 (火) ～17 日 (木) に関東支部の担当で、東京都新宿区の早稲田大学西早稲田キャンパスにおいて、第 56 回大気環境学会年会を開催した。参加者数は、正会員 352 名、賛助会員 18 名、法人会員 32 名、学生 80 名、非会員 66 名、計 548 名であり、機器展出展／カタログ出展企業数は 25 社であった。

総会、受賞記念講演、シンポジウム、特別集会、分科会、機器展が開催された。一般研究発表は、口頭発表 187 件、ポスター発表 111 件、学生・若手口頭発表 23 件他、あわせて 349 件であった。また、機器展出典企業による技術セミナーを開催した。

3. 総会開催

平成 27 年 9 月 16 日 (水) 早稲田大学西早稲田キャンパス 57 号館にて平成 27 年度総会を開催した。

審議及び報告事項

1) 平成 26 年度事業報告、収支決算報告及び監査報告について

議長より質疑を求めた後、全員一致でこれを決議した。

2) 平成 27 年度事業計画及び収支予算について

事業計画及び収支予算については、定款第 35 条により、事業年度開始前に理事会を開催し、すでに承認されているため、本総会では事後報告ということである。

3) 名誉会員の推戴について

若松会長より、笠原三紀夫会員を名誉会員に推戴する旨の報告があり、承認された。

4) 第 57 回大気環境学会年会開催地について

第 57 回大気環境学会年会を北海道で開催し、会場を北海道大学、年会長を北海道大学准教授の村尾直人会員としたい旨の提案があり、承認された。

5) 第 58 回大気環境学会年会開催地について

第 58 回大気環境学会年会を兵庫県で開催し、会場を兵庫県内、年会長を兵庫医科大学教授の島正之会員と

する計画が報告され、承認された。

#### 6) その他

特に記載事項なし。

### 4. 理事会等開催

#### (1) 理事会

##### 1) 定例の会議を次のように開催した。

第1回：平成27年8月28日（日本公衆衛生協会会議室）

審議内容：事業報告・収支決算、各委員会報告、理事会・総会議題等

第2回：平成27年9月14日（早稲田大学西早稲田キャンパス55号館第一会議室）

審議内容：総会議題、第56回年会の開催準備、中国環境科学会との交流、第57回、58回年会等

第3回：平成28年5月16日（メール審議）

審議内容：平成28年度事業計画及び収支予算

##### 2) 平成26年度事業報告及び収支決算の承認（第1回理事会）

それぞれ、原案の通り承認された。

##### 3) 平成28年度事業計画及び収支予算の承認（第3回理事会）

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条（定款第31条第2項）に基づく理事会の決議の省略の方法により、平成27年度の事業計画及び収支予算については、メール審議の方法を採用することとした。

会長が理事の全員及び監事の全員に対して、平成28年度事業計画及び収支予算に関する提案書を発し、平成28年5月27日までに理事の全員から書面又は電磁的記録により同意の意思表示を、監事の全員から書面又は電磁的記録により異議がないとの意思表示を得た。これにより、当該提案を承認可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。この結果を受け、平成28年6月17日に内閣府に事業計画書等を提出した。また、学会ホームページに掲載した。

#### (2) 常任理事会

##### 1) 定例の会議を次のように開催した。

第1回：平成27年7月31日、第2回：平成27年12月25日、第3回：平成28年3月29日、第4回：平成28年5月27日、第5回：平成28年6月13日。第5回については、公益社団法人大気環境学会常任理事会に関する規程第6条第3項に基づく常任理事会の決議の省略の方法により、メール審議とした。また、適宜メール等により、必要事項を協議した。

##### 2) 大気環境に関する調査及び研究事業の実施

###### ① 環境再生保全機構からの受託研究の実施（沿道PM<sub>2.5</sub>・ナノ粒子研究会）

平成26年度から、独立行政法人環境再生保全機構からの受託研究「道路沿道環境における微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）及びナノ粒子に及ぼす要因に関する調査研究」（平成26～28年度）を「沿道PM<sub>2.5</sub>・ナノ粒子研究会」が実施している。平成27年度も引き続き、実施した。

###### ② 環境省からの受託研究の実施（排出インベントリ研究会）

環境省から、国として整備すべき大気汚染物質排出インベントリのフレームワークについて、検討し、とりまとめを行う業務として、「平成 28 年度大気汚染物質排出インベントリフレームワークの検討業務」を受託した。平成 28 年度中に報告予定である。

### ③ 環境省からの受託研究の実施（ベーパーリターン研究会）

環境省から、VOC の排出抑制対策による光化学オキシダント等の低減効果に関する現在の科学的知見を収集・整理することにより、VOC 対策をさらに推進するための根拠となる基礎資料を作成することを目的に、「平成 28 年度光化学オキシダント等に関する文献等調査業務」を受託した。平成 28 年度中に報告予定である。

### 3) 中国環境科学学会との学術交流覚書締結について

中国環境科学学会・大気環境分会（CSES・CSAE）とは、平成 27 年 9 月 16 日付けで覚書を締結したが、改めて、中国環境科学学会（CSES）と平成 27 年 12 月 10 日付けでより具体的な内容を含む覚書を締結した。CSES は、当学会との実際の交流活動を中国環境科学学会・大気環境分会（CSES・CSAE）に委託する。同時に、中韓の覚書も同様の内容で締結された。今後は、交流の方法が見直され、三カ国同時に集まることとし、平成 28 年は釜山で開催される IUAPPA（8/29～9/2）に合わせて、韓国がホストすることとなった。

### 4) 学会賞の選考について

学会賞選考委員会の報告を受け、原案の通り承認した。

### 5) 論文賞の選考について

論文賞選考委員会の報告を受け、原案の通り承認した。

### 6) 環境省との意見交換会

昨年度に引き続き、環境省水・大気環境局との意見交換会（平成 27 年 12 月 25 日）を行った。

### (3) 支部長会

平成 27 年 9 月 14 日、早稲田大学西早稲田キャンパス第一会議室にて開催し、各支部の報告が行われた。

## 5. 出版等

### (1) 大気環境学会誌：第 50 巻 5 号～第 51 巻 4 号の計 6 号を刊行した。

また、大気環境学会誌に掲載した入門講座シリーズをまとめて冊子化し、入門講座集 2 巻を刊行した。

### (2) 第 56 回大気環境学会年会講演要旨集 B5 版にて刊行した（年会事務局）。

### (3) 日韓大気環境学会合同英文誌 AJAE (Asian Journal of Atmospheric Environment) Vol.9 No.3、No.4、Vol.10 No.1、No.2 を刊行した。

## 6. 委員会開催

### (1) 倫理委員会

第 57 回年会開催期間中の平成 27 年 9 月 15 日に倫理委員会を開催し、平成 26 年度活動報告や今後の課題について審議した。論文作成に関する倫理的な課題のうち、利益相反や論文作成における剽窃・盗用のチェック方法などについて検討した。

### (2) 編集委員会（編集実務委員会）

## 1) 定例の会議の開催

定例の会議を開催し、学会誌の編集企画を行い、合計6号(第50巻第4号～第51巻第3号)を刊行した。また、適宜メール審議により、必要事項を協議した。

第1回：平成27年7月27日、第2回：平成27年9月17日(平成27年度編集委員会を兼ねる。)、第3回：平成27年11月20日、第4回：平成28年1月25日、第5回：平成28年3月22日、第6回：平成28年5月17日

## 2) 論文審査

平成27年度の論文等の投稿は35本あり、内訳は、研究論文(一般)22、学生・若手論文4、記事(解説、資料)9であった。論文数は、ほぼ例年通りで推移している。研究論文(原著、ノート、技術調査報告)のうち、審査が終了した24本中20本が「採用」、不採用が1本、取り下げが3本であった。

## 3) 入門講座等の掲載

- ① 入門講座「火山噴火と大気環境」シリーズ(第1講：第50巻第4号～第5講：第51巻第2号)
- ② 入門講座「大気環境と植物」シリーズ(第1講：第51巻第3号から第5講：第52巻第1号予定)
- ③ 解説「環境大気常時監視」(環境大気モニタリング分科会)シリーズ(第49巻6号～第50巻第4号)
- ④ 解説「福島第一原子力発電所事故による放射性物質の大気環境影響調査研究の現状と課題」(第51巻第2号)
- ⑤ 研究室紹介を毎号掲載した。

## 4) 入門講座・解説の冊子化

大気環境学会誌第44巻から開始した入門講座・解説について、冊子化について検討を行い、概ね3シリーズ毎に刊行することとした。

## 5) J-stage アクセスランキング

J-stage データを解析し、ホームページ上に J-stage アクセスランキングをアップした。

### (3) 国際交流委員会

- 1) 第56回年会開催期間中の平成27年9月15日に、国際交流委員会を開催し、日韓学術交流並びに日中学術交流の基本方針について審議した。
- 2) 平成27年12月10日に開催された中国環境科学学会大気分会年會に、早川副会長と松田 AJAE 委員長が出席し、日本大気環境学会と中国環境科学学会との学術交流に関する覚書を締結した。同時に韓国大気環境学会と中国環境科学学会との学術交流に関する覚書も締結された。また、早川副会長は特別講演を、松田 AJAE 編集委員長はシンポジウム依頼講演を行った。

### (4) 学会賞選考委員会

平成28年5月31日を締め切りとして、平成28年度の大気環境学会賞の公募を行なった。平成28年6月6日、大気環境学会賞の各賞の選考を行なった。この結果は、常任理事会に報告した。

### (5) 論文賞選考委員会

- 1) 論文賞の選考対象論文

大気環境学会誌第 50 巻および AJAE 第 9 巻に掲載された論文とした（全 39 編）。編集委員による推薦（一次推薦）と論文賞選考委員会における選考（二次審査）の二段階選考とした。

## 2) 論文賞の選考

第 1 回論文賞選考委員会（平成 28 年 5 月 17 日）、第 2 回論文賞選考委員会（平成 28 年 6 月 7 日）を開催し、大気環境学会誌第 50 巻および AJAE 第 9 巻に掲載の論文について大気環境学会論文賞の選考を行い、最優秀論文賞 1 編、論文賞 5 編（ノート・速報部門 1 編、技術調査部門 1 編、学生・若手部門 2 編、AJAE 部門 1 編）を論文賞候補として、常任理事会に推薦した。

## (6) 広報委員会

### 1) 活動状況

#### ① 学会広報体制の充実

新しい学会ホームページのトップページを作成した。新しいホームページのトップページに掲載するバナー広告の募集を開始した。

#### ② ポスター「大気環境学会のご案内」の更新

学会誌第 51 巻の表紙に合わせて、大気環境学会ポスターを更新した。

#### ③ 第 29 回環境工学連合講演会（日本学術会議主催）への参画

例年通り、日本学術会議主催の講演会において、学会を代表して近藤 明会員が講演した。

- ・ 平成 28 年 5 月 13 日（金）（日本学術会議講堂）、総合テーマ「未来の社会を担う環境工学」
- ・ 近藤明会員の講演「気象/大気質モデルによる PM<sub>2.5</sub>濃度予測評価」

### 2) 委員会開催

第 56 回年会開催期間中の平成 27 年 9 月 15 日に、広報委員会を開催した。また、電子メール等も利用して会議を行った。

## (7) 選挙管理委員会

平成 28 年度役員（理事・監事）選挙を行った（平成 28 年 6 月 20 日告示、7 月 11 日までに投票）。開票結果の確定を平成 28 年 8 月 3 日に行い、理事及び監事候補の選出結果を、平成 28 年 9 月 6 日の理事会及び平成 28 年 9 月 8 日の総会において報告予定である。

## (8) 企画運営委員会・産官学民連絡協議会

第 56 回大気環境学会年会事務局および産学官民連絡協議会と合同で、第 56 回年会開催期間中に、賛助会員における環境へのユニークな取り組み紹介、技術セミナー等を実施した。

産学官民連絡協議会と合同で、「ドローンを用いた大気環境研究の最前線と大空ビジネス」（平成 28 年 8 月 29 日、早稲田大学西早稲田キャンパス（63 号館））の開催を企画した。

## (9) AJAE 委員会

第 56 回年会開催期間中の平成 27 年 9 月 15 日に AJAE 委員会を開催した。

韓国大気環境学会と協力して、AJAE (Asian Journal of Atmospheric Environment) Vol. 9 No. 3, No. 4, Vol. 10 No. 1, No. 2 を発行した。

また、2015 年 12 月 9 日～11 日の間、AJAE 委員長が中国広州で開催された中国環境科学学会大気分会へ出

席し、AJAEにおける中国のEditorial Board設立について協議した。

## 7. 支部報告

### (1) 北海道・東北支部

#### 1) 支部総会、支部学会等の開催

平成27年11月6日(福島大学)、支部総会、支部学会、幹事会を併催

- ・支部総会：平成26年度支部活動報告及び決算報告、平成27年度支部活動方針及び予算案の承認
- ・支部学会：一般研究13題の発表があり、また、福島大学高貝慶隆准教授から「放射性ストロンチウム90の分析法の開発」と題した特別講演をいただいた。

### (2) 関東支部

#### 1) 支部総会、講演会等の開催

平成28年6月3日(金)(ムーブ町屋ムーブホール)

- ・支部総会：平成27年度支部・部会活動報告、平成27年度中間会計報告、監査報告、平成28年度活動計画案、平成28年度予算案、参加者：186名(内委任状140名)
- ・関東支部講演会の開催(全国環境研協議会と共催)  
テーマ：「大気汚染モデルの現状と課題」、4講演

- ① 大気汚染の排出インベントリとモデリング：概説/大原利真(国立環境研究所)
- ② 大気環境予測モデルの活用～政策担当者の視点～/瀧口博明(環境省水・大気環境局)
- ③ PM<sub>2.5</sub>排出インベントリの最新状況と課題/森川多津子(日本自動車研究所)
- ④ 領域化学輸送モデルができることと課題/茶谷 聡(国立環境研究所)

#### 2) 支部役員会：第1回(平成27年10月26日)、第2回(平成28年1月20日)、第3回役員会(平成28年3月28日)、第4回(平成28年5月23日)

#### 3) 部会活動報告

酸性雨、植物影響、粒子状物質の各部会で講演会等を開催した。

### (3) 中部支部

#### 1) 総会・評議員会、一般公開シンポジウムの開催

平成28年1月24日(日)(石川県政記念 しいのき迎賓館)

- ・支部総会：平成26年度の事業報告・決算報告・会計監査報告、平成27年度事業経過報告等
- ・一般公開シンポジウム「PM<sub>2.5</sub>-汚染は悪化？それとも改善している？」：講演4題、参加者40名
- ・評議員会：総会へ提出する議題について協議

#### 2) 第33回全環研協議会東海・近畿・北陸支部共同調査研究(越境/広域大気汚染)情報交換会・PM<sub>2.5</sub>の化学特性に関する研究会を共催

平成27年10月8日(木)(講演会、JR岐阜駅ハートフルスクエアG 大研修室)、

10月9日(金)(見学会、国設伊自良湖酸性雨測定局、岐阜県保健環境研究所)

講演会：講演4題、参加者29名、見学会：参加者20名

- ・ 日本エアロゾル学会 PM<sub>2.5</sub>の化学特性に関する研究会の研究セミナー「PM<sub>2.5</sub>の成分測定に関する勉強会」を共催

平成 28 年 3月18日(金) (名古屋市環境科学調査センター)、講演4題、参加者42名

#### (4) 近畿支部

##### 1) 第 42 回近畿支部総会・シンポジウム

平成 27 年 7 月 10 日 (金) (大阪府環境情報プラザ)

- ・ 総会：平成 26 年度事業報告・収支決算報告、部会および学術委員会報告、平成 27 年度事業計画・予算案
- ・ シンポジウム「水銀汚染に関する取り組み」
  - ① 水俣条約を踏まえた今後の水銀大気排出対策について 講師：長浜智子 (環境省水・大気環境局)
  - ② 水銀使用の歴史と現在の大気排出量 講師：貴田晶子 (元 国立環境研究所)
  - ③ 水銀条約に関わる動態・観測研究について 講師：鈴木規之 (国立環境研究所)参加者 53 名 (講演者 3 名、会員 35 名、一般 15 名)

##### 2) 理事会・運営幹事会：第 1 回 (平成 27 年 7 月 10 日)、第 2 回 (平成 28 年 2 月 2 日)

##### 3) 支部講演会、学術委員会発表会、部会講演会

- ① 支部講演会「自動車排出インベントリ」：平成 27 年 11 月 25 日、大阪市立環境科学研究所、講演 3 題、参加者 34 名
- ② 学術委員会発表会：平成 27 年 12 月 25 日、大阪府大 I-site なんば、一般発表 19 題、特別講演 1 題、参加者 46 名
- ③ 人体影響部会セミナー「光化学オキシダントの実態と健康影響」：平成 28 年 3 月 9 日、大阪府環境情報プラザ、講演 4 題、参加者 24 名
- ④ エアロゾル部会大気エアロゾルセミナー「有機エアロゾルの最前線」：平成 28 年 3 月 11 日、大阪府環境情報プラザ、講演 3 題、参加者 23 名
- ⑤ 気象拡散部会講演会「数値モデルによる大気環境予測・評価」：平成 28 年 5 月 24 日、大阪府大 I-site なんば、講演 3 題、参加者 33 名
- ⑥ 反応と測定部会講演会「二次有機エアロゾル生成・反応過程に関わる研究の最前線」：平成 28 年 5 月 31 日、大阪府立大学 I-site なんば、講演 2 題、参加者 16 名

#### (5) 中国・四国支部

##### 1) 支部総会及び支部発表会

平成 28 年 1 月 23 日 (土) (愛媛大学農学部)、発表 6 題、講演 2 題

##### 2) 大気、水、廃棄物、3 学会中国四国支部合同講演会

平成 28 年 5 月 20 日 (金) (松江テルサ)、参加者 30 名

テーマ「微量汚染物質のリスクと対策」

- ① 「臭素系難燃剤・臭素化ダイオキシン類の排出動態と曝露リスクー日本およびアジア途上国での調査実例と今後の課題」、高橋 真 (愛媛大学)

② 「生活関連化学物質の水環境中動態と生態リスク評価の課題と展望」、山本 裕史 (国立環境研究所)

③ 「子どもの健康と環境に関する疫学研究－エコチル調査の概要」、新田 裕史 (国立環境研究所)

#### (6) 九州支部

##### 1) 支部総会、役員会の開催

平成 28 年 1 月 29 日 (アクロス福岡)

- ・ 平成 26 年度事業実績報告及び収支決算、平成 27 年度事業計画及び予算について

##### 2) 研究発表会の開催

平成 28 年 1 月 29 日 (アクロス福岡)、特別講演 1 件、一般講演 11 件、参加者 70 名

- ・ 特別講演：「越境大気汚染の健康影響に関する疫学研究の展開について」、新田 裕史 (国立環境研究所)

##### 3) 支部共催「アジア域の化学輸送モデルの現状と今後の展開に関する研究集会」の開催

平成27年12月3日 (九州大学応用力学研究所)

#### 8. 分科会等報告

##### (1) 植物分科会

###### 1) 年会分科会：平成 27 年 9 月 15 日 (第 56 回大気環境学会年会、早稲田大学)

テーマ：「地球温暖化の植物影響－フィールド調査からモデル解析まで」、講演 2 件、参加者 30 名

###### 2) 講演会 (主催：国立環境研究所、日本学術会議環境学委員会環境科学分科会、大気環境学会植物分科会、

共催：大気環境学会関東支部植物影響部会)

平成 27 年 12 月 11 日 (金)、国立環境研究所 地球温暖化研究棟 交流会議室

テーマ「環境変動と生物」、講演 7 件、参加者 50 名

###### 3) 世話人会議

平成 27 年 9 月 4 日、平成 27 年 12 月 11 日、平成 28 年 4 月 28 日の計 3 回

###### 4) 分科会ホームページの作成

##### (2) 都市大気環境モデリング分科会

###### 1) 年会分科会：平成 27 年 9 月 17 日 (第 56 回大気環境学会年会、早稲田大学)

都市大気エアロゾル・都市大気環境モデリング分科会共催

テーマ「国内における PM<sub>2.5</sub> 排出インベントリの現状と今後の課題」、講演 4 件、参加者 116 名

##### (3) 酸性雨分科会

###### 1) 年会分科会：平成27年9月15日 (第56回大気環境学会年会、早稲田大学)

テーマ：「水銀循環と大気中水銀濃度の実態」、講演3件、参加者57名

###### 2) 東京講演会：平成28年2月24日 (法政大学小金井キャンパス)

テーマ：「地方自治体における酸性雨、エアロゾル研究と若き研究者の育成」、若手研究者講演5件、一般講演1件、招待講演1件、参加者40名

- ・ 招待講演：「酸性雨問題と研究の歴史」、村野 健太郎 (法政大学)

4) 大阪講演会：平成27年10月8日（JR岐阜駅ハートフルスクエア）

講演4件、参加者29名

5) メールニュースの発行（21回発行、メール会員204人）

(4) 環境大気モニタリング分科会

1) 年会分科会（第37回研究会）：平成27年9月17日（第56回大気環境学会年会、早稲田大学）、全国環境研協議会と合同で開催（参加者61名）

テーマ「環境大気モニタリングから見た越境大気汚染による国内影響」、講演4件

2) 第38回研究会：平成28年3月11日（江東区文化センター）、参加者39名

テーマ「大気汚染物質計測の最新の動向と課題」

(1) デニューダー・フィルター法と大気エアロゾル化学成分連続自動分析装置（ACSA）との比較／長田和雄（名古屋大学）・山本重一（福岡県保健環境研究所）・鶴野伊津志（九州大学）

(2) β線吸収法と蛍光X線法の組合せによる自動計測装置（PX-375）の紹介／水野裕介（堀場製作所）

(3) オゾン校正法と精度管理について／橋本茂（国立環境研究所）

3) 幹事会：平成27年12月22日、平成28年4月14日

(5) 健康影響分科会

1) 年会分科会：平成27年9月15日（第56回大気環境学会年会、早稲田大学）

テーマ「粒子成分の健康影響評価とその課題」、講演3件、参加者42名

2) ISEE-ISES-AC 2016 In Sapporo 合同シンポジウム“Health effects of particles from natural sources”：平成28年6月28日（北海道大学）、講演4件、参加者約40名

(6) 自動車環境分科会

1) 年会分科会：平成27年9月15日（第56回大気環境学会年会、早稲田大学）

テーマ「最新低排気エミッション車の実態把握—更なる低減を目指して—」、講演3件、参加者約40名

2) 国際シンポジウム「蒸発ガス・給油時蒸発ガスを考える—環境影響と対策—」：平成27年11月16日（東京大学本郷キャンパス山上会館大会議室）、講演6件、参加者82名

(7) 室内環境分科会

1) 年会分科会：平成27年9月15日（火）（第56回大気環境学会年会、早稲田大学）

テーマ「屋外で使用される化学物質の室内空気質への影響—合成ピレスロイド系殺虫剤について—」、講演3件、参加者26名

2) 幹事会合：平成28年5月12日

(8) 放射性物質動態分科会

1) 年会特別集会：平成27年9月17日（第56回大気環境学会年会、早稲田大学）

テーマ「福島第一原子力発電所事故直後の大気中放射性物質動態、炉内事象および初期被ばくの研究に関する新たな進展とその横断的な考察」、講演5件、参加者約120名、一般公開

2) 幹事会：平成27年9月17日

3) 大気環境学会誌：解説「福島第一原子力発電所事故による大気環境影響調査研究の現状と課題」の掲載、

執筆者14名、第51巻第2号、A11-A19(2016)

#### (9) 臭気分科会

1) 年会分科会：平成 27 年 9 月 18 日（第 56 回大気環境学会年会、早稲田大学）

テーマ：「臭気指数規制のこれまで・これから」、講演 4 件、参加者 23 名

2) 見学会：平成 28 年 4 月 27 日（水）、参加者 12 名

① 埼玉県環境科学国際センター

② 久喜宮代衛生組合久喜宮代清掃センター

#### (10) 都市大気エアロゾル分科会

1) 年会分科会：平成 27 年 9 月 15 日（第 56 回大気環境学会年会、早稲田大学）、都市大気環境モデリング分科会と共催

テーマ「国内における PM<sub>2.5</sub> 排出インベントリの現状と今後の課題」講演 4 件、参加者 116 名

2) 学術講演会・勉強会（日本エアロゾル学会（PM<sub>2.5</sub>の化学特性に関する研究会）主催、大気環境学会中部支部との共催）、平成 28 年 3 月 18 日（名古屋市環境科学調査センター）

テーマ「PM<sub>2.5</sub>の成分測定に関する勉強会」、講演 4 件、参加者 42 名

#### (11) 沿道 PM<sub>2.5</sub>・ナノ粒子研究会

(独)環境再生保全機構からの受託業務として、「道路沿道環境における微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）及びナノ粒子に及ぼす要因に関する調査研究」（平成 26 年度～28 年度）を実施した。

平成 27 年度の研究結果の概要は、以下の通り。

##### 1) 研究内容

① 道路沿道における PM<sub>2.5</sub> 等に及ぼす要因解析

川崎市川崎臨港警察署前交差点を中心に通年観測と夏季、冬季集中観測を行った。

② 自動車からの PM<sub>2.5</sub> 排出量推計

ガソリン車からの PM<sub>2.5</sub> 排出量推計、排出量推計手法の検討、自動車からの PM<sub>2.5</sub> 排出量推計について検討した。

##### 2) 成果の発表等

① 環境改善調査研究成果発表会において概要を発表：平成 28 年 3 月 9 日

② 第 56 回大気環境学会年会自動車環境分科会集会において概要を発表：平成 27 年 9 月 15 日

3) 委員会等を 5 回開催した。

#### (12) 排出インベントリ研究会

大気汚染物質の排出インベントリに関する調査・研究を推進することを目的として、研究会設立の申請があり、平成 28 年 3 月 29 日に設立が認められた。平成 28 年 5 月 18 日に事前打合せ、同 6 月 28 日に第 1 回研究会を開催し、環境省から受託した「平成 28 年度大気汚染物質排出インベントリフレームワークの検討業務」について、検討を行った。

#### (13) ペーパーリターン研究会

平成 28 年 5 月 18 日に事前打合せ、同 6 月 28 日に第 1 回研究会を開催し、環境省から受託した「平成 28

年度光化学オキシダント等に関する文献等調査業務」について、検討を行った。

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。

平成28年9月

公益社団法人 大気環境学会